

日本語学習の場の例



参加者インタビュー動画
(YouTube)

市民が運営する日本語教室（市内約30か所）



千葉市国際交流協会
WEBサイト



千葉市国際交流協会が運営する教室



千葉市国際交流協会
WEBサイト



日本語学習サイトの例

オンデマンド学習 社会生活に役立つ「千葉市日本語学習プログラム」



千葉市国際交流協会
WEBサイト

- ・eラーニングで、いつでも、どこでも、ライフスタイルに合わせて学べます。
- ・スクーリングでは、eラーニングで学習した内容について他の参加者とやりとりしたり、実際にまちの中で使ってみたりします。

オンライン日本語学習教材（文部科学省） 『つながるひろがるにほんごでの暮らし』



文部科学省
WEBサイト

日本語を母語としない外国人等に寄り添う方へ

周囲に「日本語がわからなくて不便だ・孤独だ」と感じている方はいませんか？
このリーフレットは、このような方たちに寄り添う気持ちをお持ちの方に読んでいただくものです。

千葉市の人口の4.0%（※）は外国人市民で、年々割合が増えています。その他、日本国籍であっても日本語が母語ではない市民もいます。ここでは、両者を含めて「外国につながる市民」と表記します。

※令和6年12月末現在、千葉市データ

千葉市では多様な言語・文化を背景に持つすべての市民が安全・安心に暮らせるまちづくりを目指しています。

外国につながる市民にとっては、日本語で意思疎通ができれば、生活はより安全・安心になり、また、持っている能力を発揮して活躍できる場が増えます。

1人でも多くの外国につながる市民が日本語学習に届くように、千葉市では日本語学習の利点や学習の場について動画シリーズをつくりました。このリーフレットには、それぞれの動画の要約を載せています。

このような情報を、当事者の方たちに届けるのは難しいと感じています。そこで、寄り添いや仲介の気持ちを持つ多くの方に内容を知っていただき、この情報があなたを介して当事者に届くことを期待しています。

お願いしたいこと

○各動画の要約を通して、地域の多文化化と「ことばの壁」について知ってください。

○日本語に不自由を感じている方にお心当たりがあったら、これらの動画を紹介してください。

日本語を母語としない外国人等に寄り添う方向けリーフレット



“日本語の壁”を越えるために

「日本語が難しくて生活が不便」「日本語を学びたいと思っているけれども後回しになっている」という外国人市民に、この情報を届けてください。

令和7年2月

千葉市・千葉市国際交流協会

日本語学習について相談できます。
一人一人に適した学習の場や学習方法を日本語教育コーディネーターが提案します。

【お問い合わせ】

千葉市国際交流協会



043-306-1034



nihongo@ccia-chiba.or.jp



日本語ができることのメリットとは

動画講師：吉野文（千葉大学教授）



解説動画
(YouTube)



●日本の社会と繋がりを作ることは、日本で安心・安全な生活をするために重要なこと

●日本語は社会と繋がる道具の一つである

◆日本語ができると、例えば・・・

【日常生活で】

- ・病院で症状を説明したり、薬の飲み方の説明を理解したりすることができる。
- ・災害が起きたとき、どうすればいいかわかる。



【子育てで】

- ・周りの保護者や学校の先生に相談できる。
- ・将来について話し合うとき、子どもが親の言語よりも日本語に慣れてしまっている場合でも、子どもの考えや気持ちを理解することができる。



【仕事で】

- ・一緒に働いている人とよりよい関係が作れる。
- ・将来の選択肢が広がる。

◆さらには・・・

●日本語で自己表現したり、周囲の人と対話したりすることで自己実現につながる

●持っている能力を発揮することで、活躍の場が増える

●より一層、その人らしく、生き生きと生活することができる

千葉市で日本語を学んだ人の声

日本で子育てした人



〇さん

キューバ出身（日本に来て30年）
日本で2人の子育てを経験
外国人児童生徒支援に関わっている

インタビュー動画
(YouTube)



「このまま日本語がわからなかったら困る」と 出産を前に思った

日本に来たばかりのころは、全く日本語ができませんでした。が、出産を前にこのままではいけないと感じ、日本語教室に参加しました。クラスは多国籍でとても楽しかったです。

子どもが生まれてからは、日本語を使うために意識してどんどん外に出ました。とにかく前向きな気持ちで日本人の友だちを作ったり、いろいろなグループに参加したりしました。そこでは、生活や子育てに関する様々な情報を得ることができました。それまで続けてきた日本語の学習もコミュニケーションを取る上で役に立ちました。

いつか私の経験や日本語を活かせたらと思い、子育てをしながら、準備をしていました。今、当時を振り返ってみて、よかったと感じています。

日本で働いている人



Sさん

インド出身（日本に来て26年）
千葉市内でインドカレー店経営

インタビュー動画
(YouTube)



日本での生活を楽しくするための一番の方法は、 日本語を学ぶこと

日本に来て2・3年は日本語がわからなくて、生活が大変でした。友だちもあまりいませんでした。

当時も仕事をしていたのであまり時間がありませんでしたが、地域の教室などいろいろな所に参加し、学習を続けました。独学で学習する方法もありますが、1人でやるより、先生や仲間と一緒にの方が楽しく・速く身につきました。

私の経験上、やはり日本語がわからないと、日本での生活は難しいと思います。だからいつも日本語が得意ではない店のスタッフやお客さんに「日本語を勉強したら、生活が楽になるよ」と話しています。

外国ルーツの保護者を持つ子どもの声



(左) Lさん

ブラジル出身

日本に来て18年（来日当時6歳）

インタビュー動画
(YouTube)



(右) Yさん

中国出身

日本に来て10年（来日当時10歳）

親が日本語がわからないと、子どもが親に頼りたいときに親に頼れなくなってしまう

日本語がわからないからという理由で、親が子どもの学校生活や進路の相談に関わらなかったら、人生の重要な場面で、子どもはすごく不安

L：私の両親はやさしい日本語は理解できますが、難しい日本語は理解できません。私が小学生のときは、学校の三者面談でよく私が通訳していました。

Y：私の母は日本語が全然わかりません。私も中学生になってからは、面談のとき、私が通訳をしていました。面談で自分に都合の悪いことは、親に伝えませんでした。大学生になると、年金や保険など、よくわからないのに、私自身のことに加えて、親の年金や保険の手続きまで私がやらなければなりません。

L：私も年齢が上がるにつれて、親に頼られることが増えました。特に家族のプライバシーにかかわる問題は、他の人ではなく、私に通訳してほしいです。実際に、親の仕事で問題があったとき、親と会社の人の間に入って通訳することも多かったです。

◆伝えたいメッセージ◆

L：もし、この先も長く日本で子どもと一緒に暮らしていくなら、子どもの将来の生活に関われるように、ぜひ日本語を学んでほしいです。親が日本語ができないと、親子のコミュニケーションの壁ができてしまいます。頼りたいときに親に頼れなくなってしまう。

Y：大学受験のとき、経験がないので受験のことがよくわからなくて、とても不安でした。母に相談しても、「好きなようにしていいよ」と言われました。親が日本語がわからないことで、子どもの生活に積極的に関わらなかったら、人生の重要な場面でも子どもはすごく不安であってしまいます。